



平成29年6月期 第3四半期決算短信(日本基準)(非連結)

平成29年5月12日

上場会社名 株式会社 三光マーケティングフーズ
 コード番号 2762 URL <http://www.sankofoods.com/>

上場取引所 東

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 平林 隆広
 問合せ先責任者 (役職名) 情報開示担当執行役員 (氏名) 富川 健太郎

TEL 03-3537-9711

四半期報告書提出予定日 平成29年5月12日

配当支払開始予定日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成29年6月期第3四半期の業績(平成28年7月1日～平成29年3月31日)

(1) 経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
29年6月期第3四半期	10,041	2.5	98		84		169	
28年6月期第3四半期	10,303	5.7	215		263		222	

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
29年6月期第3四半期	11.78	
28年6月期第3四半期	15.47	

(2) 財政状態

	総資産		純資産		自己資本比率	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%
29年6月期第3四半期	10,967		7,889			71.9
28年6月期	11,328		8,286			73.1

(参考)自己資本 29年6月期第3四半期 7,889百万円 28年6月期 8,286百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
28年6月期		8.00		8.00	16.00
29年6月期		8.00			
29年6月期(予想)				8.00	16.00

(注)直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成29年6月期の業績予想(平成28年7月1日～平成29年6月30日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	13,500	1.8	150		110		230		15.98

(注)直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

注記事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
以外の会計方針の変更 : 無
会計上の見積りの変更 : 無
修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)	29年6月期3Q	14,387,000 株	28年6月期	14,387,000 株
期末自己株式数	29年6月期3Q	株	28年6月期	株
期中平均株式数(四半期累計)	29年6月期3Q	14,387,000 株	28年6月期3Q	14,387,000 株

四半期決算短信は四半期レビューの対象外です

業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

・本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等はさまざまな要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料2ページ「業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	2
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明	2
2. サマリー情報(注記事項)に関する事項	3
(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	3
(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	3
(3) 追加情報	3
3. 四半期財務諸表	4
(1) 四半期貸借対照表	4
(2) 四半期損益計算書	6
(3) 四半期財務諸表に関する注記事項	7
(継続企業の前提に関する注記)	7
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	7
(セグメント情報等)	7
(重要な後発事象)	7

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

第3四半期累計期間(平成28年7月1日～平成29年3月31日)における我が国経済は、人手不足を背景に雇用および所得環境の改善が続くなか、企業の収益環境の改善も持続しており、緩やかな回復基調が続いております。しかしながら、米大統領の政策運営や欧州選挙など先行きへの不透明感の懸念もあり、不安定な状況が続いております。

外食業界におきましては、食におけるTPO〔Time(時間)、Place(場所)、Occasion(場合)〕のニーズが多様化し、業種・業態の垣根を越えた競争がより激化する中、「原材料の高騰」と、「人材確保難」に見舞われ、「原価率上昇」と「人件費増大」が大きな経営圧迫要因になってきております。

このような大きな構造的変化が起こっている中、「従来の業態構造や仕組み、働き方にとらわれることなく、脱却しなければ市場に適合できなくなる」との認識のもと、当社は「安定した収益が見込めるアカマル屋の積極的な出店」、「新たに必要とされる市場ニーズに対応した新業態店舗の開発」、そして「主体的に業態・店舗を革新・進化させて行く人材育成」に取り組んでまいりました。

特に、主力ブランド「金の蔵」につきましては、「平日」に焦点を当て、ドリンクキャンペーンやハッピーアワーの継続実施を行うことにより、客数の押し上げをはかるとともに、プレミアムフライデーを商機ととらえて早い時間からオープンし、新たなお客様の取り込みに注力してまいりました。

また、その一方で、一部店舗の営業時間を、社員負担軽減と生産性の観点から見直し、深夜の営業時間短縮を行いました。

なお、平成28年8月に新たな業態として大宮に開店した蕎麦酒場「ゑびや」はお客様に支持され、順調に推移していますが、当業態の新たな市場適合性を検証するため、本年1月に、池袋へ出店を行うとともに、かつて「金の蔵」を利用された世代のニーズに応える為、焼き鳥「ゴールデン金の蔵」を立ち上げました。

更に、業態・店舗の健全なポートフォリオを築くべく、2店舗の業態変更、不採算店舗1店舗の退店を実施いたしました。

以上の取り組みにより売上高は、100億41百万円(前年同期比2.5%減)となりました。営業利益につきましては、食材調達価格の高騰や人件費の上昇もあり、98百万円の損失(前年同期は営業利益2億15百万円)、経常利益は84百万円の損失(前年同期は経常利益2億63百万円)、当四半期純利益は、1億69百万円の損失(前年同期は四半期純利益2億22百万円)となりました。

(2) 財政状態に関する説明

当第3四半期会計期間末における流動資産は、39億45百万円となり、前事業年度末に比べ、6億59百万円減少いたしました。これは主に、現金及び預金が減少したことによるものであります。固定資産は70億22百万円となり、前事業年度末に比べ、2億98百万円増加いたしました。これは主に、業態変更に係る建物の増加によるものであります。この結果、総資産は109億67百万円となり、前事業年度末に比べ、3億60百万円減少いたしました。

当第3四半期会計期間末における流動負債は、16億52百万円となり、前事業年度末に比べ、85百万円減少いたしました。これは主に、未払法人税等の減少によるものであります。固定負債は、14億25百万円となり、前事業年度末に比べ、1億21百万円増加いたしました。これは主に、資産除去債務の増加によるものであります。この結果、負債の部は、30億78百万円となり、前事業年度末に比べ、36百万円増加いたしました。

当第3四半期会計期間末における純資産の部は、78億89百万円となり、前事業年度末に比べ3億96百万円減少いたしました。これは主に、四半期純損失の計上及び配当金の支払によるものであります。

(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明

平成29年6月期の業績予想につきましては、平成29年2月10日に公表いたしました業績予想に変更はありません。

2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

(税金費用の計算)

税金費用については、当第3四半期会計期間を含む事業年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。ただし、当該見積実効税率を用いて税金費用を計算すると著しく合理性を欠く結果となる場合には、法定実効税率を使用する方法によっております。なお、法人税等調整額は、法人税等を含めて表示しております。

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

該当事項はありません。

(3) 追加情報

「繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針」(企業会計基準適用指針第26号 平成28年3月28日)を当第1四半期会計期間から適用しております。

3. 四半期財務諸表及び主な注記

(1) 四半期貸借対照表

(単位：百万円)

	前事業年度 (平成28年6月30日)	当第3四半期会計期間 (平成29年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	4,085	3,424
売掛金	144	179
原材料	33	37
前払費用	295	261
その他	46	42
流動資産合計	4,605	3,945
固定資産		
有形固定資産		
建物	4,429	4,793
減価償却累計額	△2,640	△2,698
建物(純額)	1,788	2,094
工具、器具及び備品	994	1,055
減価償却累計額	△850	△856
工具、器具及び備品(純額)	144	198
土地	942	942
建設仮勘定	45	5
有形固定資産合計	2,920	3,240
無形固定資産	18	43
投資その他の資産		
関係会社株式	33	33
差入保証金	3,421	3,379
その他	337	332
貸倒引当金	△7	△7
投資その他の資産合計	3,784	3,738
固定資産合計	6,723	7,022
資産合計	11,328	10,967

(単位：百万円)

	前事業年度 (平成28年6月30日)	当第3四半期会計期間 (平成29年3月31日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	528	542
未払金	186	259
未払費用	506	467
未払法人税等	91	48
未払消費税等	55	19
前受収益	204	202
役員賞与引当金	20	-
設備関係未払金	62	55
資産除去債務	44	7
その他	36	51
流動負債合計	1,737	1,652
固定負債		
繰延税金負債	140	140
退職給付引当金	117	128
資産除去債務	734	850
その他	311	304
固定負債合計	1,304	1,425
負債合計	3,042	3,078
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,390	2,390
資本剰余金	2,438	2,438
利益剰余金	3,459	3,060
株主資本合計	8,289	7,889
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	△2	-
評価・換算差額等合計	△2	-
純資産合計	8,286	7,889
負債純資産合計	11,328	10,967

(2) 四半期損益計算書

第3四半期累計期間

(単位：百万円)

	前第3四半期累計期間 (自平成27年7月1日 至平成28年3月31日)	当第3四半期累計期間 (自平成28年7月1日 至平成29年3月31日)
売上高	10,303	10,041
売上原価	2,631	2,605
売上総利益	7,672	7,436
販売費及び一般管理費	7,456	7,535
営業利益又は営業損失(△)	215	△98
営業外収益		
受取利息	0	0
受取賃貸料	17	17
受取配当金	0	0
貸倒引当金戻入額	0	0
保険解約返戻金	27	—
その他	10	13
営業外収益合計	56	31
営業外費用		
賃貸費用	5	5
その他	2	11
営業外費用合計	7	16
経常利益又は経常損失(△)	263	△84
特別利益		
固定資産売却益	0	0
抱合せ株式消滅差益	25	—
特別利益合計	25	0
特別損失		
固定資産除却損	—	2
店舗閉鎖損失	14	11
減損損失	15	27
火災損失	—	14
その他	0	3
特別損失合計	31	58
税引前四半期純利益又は税引前四半期純損失(△)	257	△142
法人税等	35	27
四半期純利益又は四半期純損失(△)	222	△169

(3) 四半期財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

該当事項はありません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。